

令和 3 年 5 月 7 日現在

機関番号：32507

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2020

課題番号：16K02416

研究課題名（和文）享保・宝暦期俳諧の新研究：芭蕉没後の「かるみ」伝播を軸にして

研究課題名（英文）A new Study of Haikai in the Kyoho and the Horeki Eras: With a Special Emphasis on Karumi

研究代表者

佐藤 勝明 (SATO, Katsuaki)

和洋女子大学・人文学部・教授

研究者番号：60255172

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究における大きな課題は、享保・宝暦期の俳諧作品を実際に評釈することであった。この研究期間を通して、6つの歌仙の評釈を公表することができ、この時期の俳諧が芭蕉の「かるみ」から離れていく実態を指摘した。また、俳書『東風流』を翻刻し、評釈と論考を加えた書物を刊行して、芭蕉流の継承をめざしつつも、その根幹が忘れられつつある時代的な問題を指摘した。さらに、宝永・正徳期の俳書を網羅的に調査し、「俳人大観」を作成して公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

享保・宝暦期の俳諧作品に関しては、従来、人的交流を把握するための材料とすることが多かったのに対し、本研究では、実際に歌仙の評釈し、そのことを通じて作品の傾向を具体的に指摘した。その結果、都市系・地方系と単純に分けるだけでは見えてこない、俳壇のさまざまな動きをとらえることができた。また、宝永・正徳期の俳書を網羅的に調査し、「俳人大観」としてその成果を公にしたことで、元禄期から享保期に至る過程の俳壇が立体的に浮かび上がることになった。

研究成果の概要（英文）：This study aimed at critically analyzing works of the Haikai during the Kyoho and the Horeki eras. This resulted in the publishing of annotations of six Kasen, and also shed light on how Haikai in these two eras grew apart from Basho's Karumi. In addition, the researchers published a reprint of "Azumaburi" with annotation and analysis. We raised a critical question about how this work, while aimed at following Basho, failed to include some significant concepts, due to factors specific to that era. Lastly, we did a comprehensive examination of books on Haikai in the Hoei and the Shotoku eras, and then published this analysis as "Haijin Taikan".

研究分野：日本文学

キーワード：近世俳諧 享保・宝暦期 都市系と地方系 かるみ 蕉風

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究は2006～2008年度に科学研究費を受けて行った研究、「『炭俵』『別座鋪』の分析による「かるみ」の研究」(課題番号18520127)、平成2009～2011年度に科学研究費を受けて行った研究、「『続猿蓑』と地方俳書の比較による「かるみ」の研究」(課題番号21520200)、2013～2015年度に科学研究費を受けて行った研究、「芭蕉五十回忌に至る「かるみ」の継承と伝播に関する研究」(課題番号25370226)の延長上にあるものであり、これらの成果を活用しつつ、享保・宝暦期の俳諧をとらえ直そうとしたものである。以下、3つの点に分けて説明する。

- (1) 芭蕉が晩年に提唱した「かるみ」に関しては、『炭俵』『別座鋪』『続猿蓑』の連句分析を通して、その本質をほぼ解明することができた。すなわち、それは、高度な思考活動を行いながら、その痕跡をほとんど残さないほど潔い捨象と推敲によって、簡潔で印象鮮明な句をなすということであった。また、これまでの研究によって、見込・趣向・句作の3段階で付合を分析する手法も、その有効性が確認されている。本研究でも、その手法を活用し、都市系・地方系の連句作品を具体的に分析することになる。
- (2) これまでの研究では、全国の図書館・文庫等に所蔵される俳諧資料を手に取り、その調査・分析を通して、俳壇のさまざまな問題を明らかにしてきた。本研究でも、これを継続し、できる限り多くの俳諧資料に照明を当てることに注力していくことになる。
- (3) これまでの研究により、『元禄時代俳人大観』全三巻(八木書店、2011-2012)と、これを引き継ぐ「宝永正徳俳人大観」(『近世文芸研究と評論』誌上に連載)を公にしてきた。これらは、俳書を悉皆的に調査し、入集者と入集状況を一覧化するものである。本研究でも、これを継続し、「宝永正徳俳人大観」の完成をめざすことになる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、これまで俳諧の暗黒期とも呼ばれた享保・宝暦期の俳諧に新たな光を当て、その魅力を十二分に引き出すことにある。その研究にあたっては、これまでの研究で培った方法を駆使し、芭蕉が晩年に提唱した「かるみ」を一つの基準として、各作品と対峙することになる。ことに、都市系・地方系という区分が本当に有効であるのかどうか、その区分を超えて何らかの特徴を見出すことができるのかどうか、大きな問題となる。以下、次の3つに分けて説明する。

- (1) この研究では、享保・宝暦期の未注釈の連句作品を対象に、注釈を施しつつ、それぞれの傾向と特徴を探ることが、何にも増して優先すべきことである。果たして、芭蕉が提唱し、実践した付合のあり方が、この時期の俳人たちにはどう受け止められていたか、そして、彼らは実際にどのような付け方を試みているのかが、解明すべき大きな問題としてある。ともすれば、俳人間の交流を明らかにしてよしとする傾向のあった従来の研究に対し、実際の作品分析を行い、これを俳人交流の諸問題とつなげて考えようとするところに、この研究の新しさがある。
- (2) 新たな俳諧資料の発掘をめざすとともに、これまで知られている資料を見直し、とらえ直そうとしていくところに、この研究のもう一つの目的がある。そのためには、未翻刻作品を翻刻し、これに注釈や論考を加え、総合的な判断を下していくことが必要であると考え。そのことを通じて、この時期の俳諧研究に大きな一石を投じ、合わせて俳諧研究のあり方にも一つの提言をしていきたいと考える。
- (3) 俳書の悉皆的な調査と分析に基づく「俳人大観」こそは、座の文芸である俳諧研究に欠かせないことであり、この作業を継続し、「宝永正徳俳人大観」の完成をめざすとともに、「享保時代俳人大観」の準備をすることが、本研究のもう一つの目的になる。そして、これを俳人研究だけにとどめるのではなく、俳諧の作品分析とつなげることで、(2)に記した「俳諧研究のあり方」の変更にも迫ることも可能になると考えられる。

3. 研究の方法

本研究で用いる研究の方法としては、基本的に、これまでの研究で得られたものを活用する。そして、その研究方法の有効性を高めていくとともに、方法の普遍化にまでつなげていきたいと考えている。以下、次の3つの点に分けて説明する。

- (1) 本研究で最も重視するのは、連句作品を注釈し、そこから傾向・特徴を見つけ、享保・宝暦期の俳諧がどのようなものであったかを探ることである。また、この時期の作品の多くは未翻刻であるから、その翻刻作業にも力を注ぐことになる。連句作品の注釈にあたっては、次の三段階分析法を用いて付合を読んでいく有効性が、これまでの研究を通して確認されてきた。その分析方法とは、付句の作者は前句をどのように理解し、とくどの点に着目したか、という〔見込〕、その見込に基づき、付句にはどのような場面・人物像・情景などを詠もうと考えたか、という〔趣向〕、その趣向に従って、具体的にはどのような素材・表現を選んで一句にまとめたか、という〔句作〕の三段階により、付句作者の脳内活動を裏付けていこうというものである。とくに、からを導く際の過程に、個々の特徴が現れやすいこと、からに至る過程に、時代的な傾向が現れや

- すいことが、明らかになりつつある。本研究では、この方法を使い、右の特徴や傾向についても留意しながら、連句作品を注釈し、その位置づけを考えていくことになる。
- (2) これまでの研究を通じて、各地の図書館・資料館・文庫等との間には良好な信頼関係ができていいる。それを活用しながら、情報の収集を怠らず、未発見・未発表の資料探索に努め、その紹介・翻刻・注釈などを行うことも、この研究の大事な側面である。共同研究の長所として、参加する研究者の知見や問題意識を総動員して、各資料の位置づけを行い、俳壇研究と作品分析がどちらも不可欠であり、両者の切り結ぶところに俳諧研究の新たな可能性もあるのだということを、明らかにしていく。そのためにも、各機関を訪ね、俳諧資料を手にとって調べる作業を重視していきたい。
 - (3) すでに前掲『元禄時代俳人大観』の作業を通じて、研究代表者らは各俳諧資料に向き合い、解題を記し、入集者と入集状況の一覧を作ることに精通している。そして、その作業を通じてさまざまな問題点を見つけ、これを論じることに慣れてきつつある。本研究でもこの作業を継続し、「宝永正徳俳人大観」を完成させる。俳諧史の宝永・正徳期は、元禄時代と享保時代の間にはさまれ、ともすれば無視されがちであった。しかし、実はこの時期こそ、大きな第二の変節点である（第一の変節点は天和期）ことが、これまでの作業からも見えてきつつあり、享保・宝暦俳諧の諸問題はこの時期にその萌芽の見られることが、たしかな結論と言えるものと予想される。

4. 研究成果

4年をかけて行う予定であった本研究は、研究代表者が途中で体調を崩し、研究の中断を余儀なくされたことから、1年の延長を申請し、5年をかけて終了した。研究代表者の体調が回復してからは、各作業とも順調に進み、予定していたことをほぼすべてやり遂げることができた。以下、これも次の3点に分けて説明する。

- (1) この研究では、未注釈の連句作品に注釈を施し、その傾向と特徴を把握することが、何よりの優先課題であった。まず、作品の選定から着手し、都市系と地方系という観点を中心に、以下の作品を選定した。地方系としては、享保以前の重要な俳書として支考編『白陀羅尼』(元禄17)と、支考から廬元坊への交代期に当たる童平編『節文集』(享保18)。都市系としては、享保期の入口ともいべき時期の周竹編『きくいたゞき』(正徳3)と、江戸座を代表する沾洲編『親うぐひす』(享保20)。そして、蕉風復古の嚆矢とされる長水ら編『五色墨』(享保16)と、水光ら編『四時観』(享保18)。これらより歌仙一巻ずつを選び、三段階分析の手法を使って注釈を行った。その結果、芭蕉流の付合手法は、都市系・地方系を問わず、たしかに継承されているものの、「見込」から「趣向」を立てる際に恣意的な面が目立つこと、「趣向」と「句作」が一体化しがちで、一句立への方向が進みつつあること、の2点が明らかとなった。それらの点は、都市系・地方系の違いとはあまり関わりがなく、新風の兆を指摘されがちな『五色墨』『四時観』でも同様なのであった。これは、この研究によって初めて明らかにできたことと言える。
- (2) できる限り各地の機関を訪問することに務め、大垣市奥の細道むすびの地記念館・須賀川市風流のはじめ館・岡崎市美術博物館・岩田洗心館(愛知県犬山市)・彦根市立図書館などで調査を行った。新出資料としては、玄隆編『雪の下芽』(寛保3)を発掘し、翻刻・紹介し、そのほか、眠魚編『故郷塚』(明和3)を入手して、翻刻を行った。また、佐賀大学図書館蔵の春來編『東風流』(宝暦6)全七冊を翻刻し、所収二歌仙の評釈と論考7編を加え、一書として刊行した。研究代表者の体調不良から、一時は調査旅行を断念せざるをえない事態を経験したものの、その後は調査も作業も順調に進めることができ、十分な成果を上げるに至った。
- (3) 宝永・正徳期の俳書を網羅的に調査し、入集状況などを一覧化することは、元禄期の俳諧の行方をたどるためにも、享保・宝暦期の俳諧の原点を探るためにも、不可欠の作業と言える。本研究の5年間で作業は滞りなく進み、この間に『近世文芸研究と評論』誌上の連載も(六)~(十三)の8回をかぞえ、正徳末までの一覧化が終了した。なおも補遺の資料探索に努めており、これを加えて書籍化することを計画している。そして、この作業から見えてきた俳壇史上の問題は多く、これを(1)や(2)の成果と結びつけ、近世中期俳諧の見直しをすることが、次なる課題として浮上している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計31件（うち査読付論文 21件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 佐藤勝明	4. 巻 62
2. 論文標題 『紙文夾』 「嬉しさや」歌仙分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 和洋女子大学紀要	6. 最初と最後の頁 201-212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18909/00001992	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 佐藤勝明	4. 巻 56
2. 論文標題 『猿蓑』春発句考（五） 上巳の節句と小動物	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 和洋国文研究	6. 最初と最後の頁 62-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 伊藤善隆・金子俊之・佐藤勝明	4. 巻 99
2. 論文標題 宝永正徳俳人大観	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 近世文芸研究と評論	6. 最初と最後の頁 170-195
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 佐藤勝明・玉城司・伊藤善隆・服部直子・越後敬子・稲葉有祐	4. 巻 98
2. 論文標題 『親うぐひす』 「うぐひすや」歌仙分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 近世文芸研究と評論	6. 最初と最後の頁 180-194
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勝明	4. 巻 99
2. 論文標題 翻刻・故郷塚	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 近世文芸研究と評論	6. 最初と最後の頁 51-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勝明・玉城司・伊藤善隆・服部直子・越後敬子・稲葉有祐	4. 巻 96
2. 論文標題 『きくいたゞき』「他力あり」歌仙分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 近世文芸研究と評論	6. 最初と最後の頁 204-220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勝明・小林孔	4. 巻 97
2. 論文標題 『深川』「洗足に」歌仙分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 近世文芸研究と評論	6. 最初と最後の頁 223-239
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤善隆・金子俊之・佐藤勝明	4. 巻 97
2. 論文標題 宝永正徳俳人大観(11)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 近世文芸研究と評論	6. 最初と最後の頁 267-302
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勝明	4. 巻 55
2. 論文標題 『猿蓑』春発句考(四) 春の中間点	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 和洋国文研究	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勝明	4. 巻 61
2. 論文標題 『紙文夾』「浦紅葉」歌仙分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 和洋女子大学紀要	6. 最初と最後の頁 243-254
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.18909/00001957	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤善隆	4. 巻 12
2. 論文標題 阿井・大馬木連中編『出雲筵』 手銭記念館所蔵俳諧資料(十三)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山陰研究	6. 最初と最後の頁 65-74
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤善隆	4. 巻 58
2. 論文標題 「はみか 執心蔵見立評判記」 幕末期俳人の見立番付	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立正大学国語国文	6. 最初と最後の頁 48-57
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勝明	4. 巻 60
2. 論文標題 『元禄風韻』 「師の桜」 歌仙分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 和洋女子大学紀要	6. 最初と最後の頁 199-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18909/00001925	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勝明	4. 巻 54
2. 論文標題 『猿蓑』 春発句考 (三) - 一月後半から二月へ -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 和洋国文研究	6. 最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勝明・小林孔	4. 巻 95
2. 論文標題 『深川』 「冴そむる」 歌仙分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 近世文芸研究と評論	6. 最初と最後の頁 14-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勝明・玉城司・伊藤善隆・服部直子・越後敬子・稲葉有祐	4. 巻 94
2. 論文標題 『四時観』 「名月や」 歌仙分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 近世文芸研究と評論	6. 最初と最後の頁 71-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勝明・伊藤善隆・金子俊之	4. 巻 94
2. 論文標題 宝永正徳俳人大観（九）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 近世文芸研究と評論	6. 最初と最後の頁 122-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勝明・伊藤善隆・金子俊之	4. 巻 95
2. 論文標題 宝永正徳俳人大観（十）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 近世文芸研究と評論	6. 最初と最後の頁 80-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤善隆	4. 巻 11
2. 論文標題 花叔三回忌追善集『夢路の葉桜』 手銭記念館所蔵俳諧資料（一一）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 山陰研究	6. 最初と最後の頁 19-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勝明	4. 巻 95-3
2. 論文標題 『おくのほそ道』の越後路前後	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 3-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勝明	4. 巻 58
2. 論文標題 『ひさご』「木のもとに」歌仙分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 和洋女子大学	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18909/00001572	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勝明	4. 巻 53
2. 論文標題 『猿蓑』春発句考(二) 七草の行事と朧・鶯	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 和洋国文研究	6. 最初と最後の頁 18-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勝明・小林孔	4. 巻 92
2. 論文標題 『深川』「青くても」歌仙分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 近世文芸研究と評論	6. 最初と最後の頁 98-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤善隆・金子俊之・佐藤勝明	4. 巻 92
2. 論文標題 宝永正徳俳人大観(八)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 近世文芸研究と評論	6. 最初と最後の頁 130-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勝明	4. 巻 90
2. 論文標題 翻刻・『雪の下芽』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 近世文芸研究と評論	6. 最初と最後の頁 17-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勝明・玉城司・伊藤善隆・服部直子・越後敬子・稲葉有祐	4. 巻 91
2. 論文標題 『五色墨』 「うぐひすや」歌仙分析	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 近世文芸研究と評論	6. 最初と最後の頁 101-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勝明	4. 巻 52
2. 論文標題 『猿蓑』春発句考(一) 梅の一連	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 和洋国文研究	6. 最初と最後の頁 22-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勝明	4. 巻 57
2. 論文標題 『此ほとり』 「薄見つ」歌仙分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 和洋女子大学紀要	6. 最初と最後の頁 163-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18909/00001416	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勝明	4. 巻 1
2. 論文標題 芭蕉は何をめざしたのか 『猿蓑』と『奥の細道』を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 近世文学史研究	6. 最初と最後の頁 43-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤善隆・金子俊之・佐藤勝明	4. 巻 90
2. 論文標題 宝永正徳俳人大観(六)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 近世文芸研究と評論	6. 最初と最後の頁 145-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤善隆・金子俊之・佐藤勝明	4. 巻 91
2. 論文標題 宝永正徳俳人大観(七)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 近世文芸研究と評論	6. 最初と最後の頁 166-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 佐藤勝明
2. 発表標題 西行と近世前期俳諧
3. 学会等名 西行学会(招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 佐藤勝明（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 世音社	5. 総ページ数 488
3. 書名 東風流 宝暦俳書の翻刻と研究	

1. 著者名 玉城司・小幡伍	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 290
3. 書名 真田幸広点取百韻 翻刻と解題	

1. 著者名 金田房子・玉城司	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新典社	5. 総ページ数 375
3. 書名 鳳朗と一茶 近世後期俳諧の研究	

1. 著者名 雲英末雄・佐藤勝明	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 285
3. 書名 花見車・元禄百人一句	

1. 著者名 山下則子他（伊藤善隆を含む）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 382
3. 書名 在外絵入り本 研究と目録	

1. 著者名 出雲大社御遷宮奉賛会（伊藤善隆を含む）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 今井出版	5. 総ページ数 227
3. 書名 出雲地域の学問・文芸の興隆と文化活動	

1. 著者名 佐藤勝明・小林孔	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 284
3. 書名 続猿蓑五歌仙評釈	

1. 著者名 佐藤勝明	4. 発行年 2018年
2. 出版社 新典社	5. 総ページ数 293
3. 書名 元禄名家句集略注 小西来山篇	

1. 著者名 佐藤勝明	4. 発行年 2018年
2. 出版社 大垣市・大垣市教育委員会	5. 総ページ数 237
3. 書名 全文を読み切る『奥の細道』の豊かな世界	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	玉城 司 (TAMAKI Tsukasa) (20410441)	清泉女子大学・付置研究所・客員所員 (32632)	
研究分担者	伊藤 善隆 (ITO Yoshitaka) (30287940)	立正大学・文学部・准教授 (32687)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------